



三井金属鉱業株式会社(5706)

2015年3月期

決算説明会

2015年5月11日

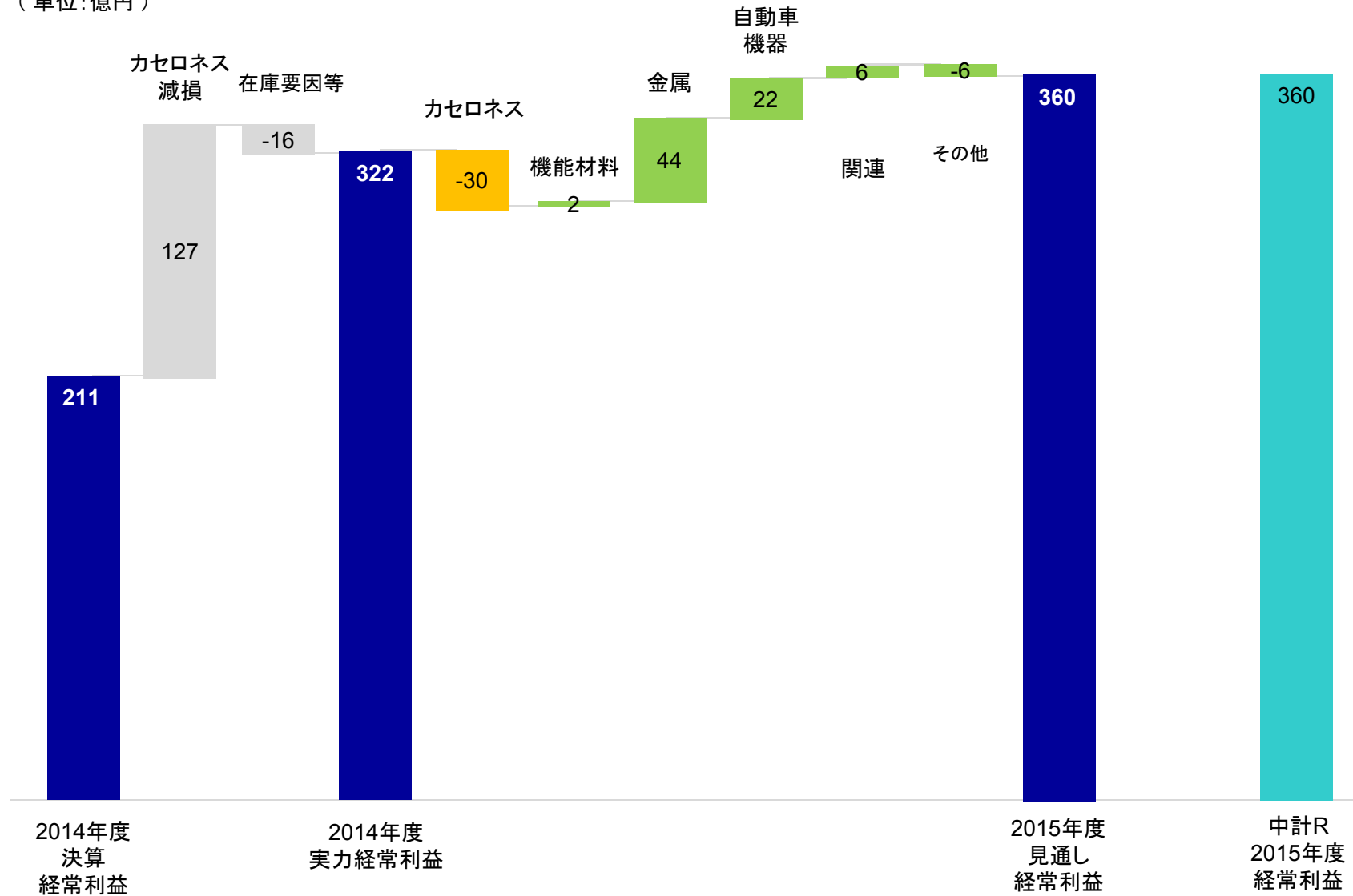
※ 本資料中における「中計R」とは2014年8月にリリースした、見直し後の内容を指します

中計レビュー
2015年度

カセロネスのフル稼働遅れの影響は大きいですが、為替・金属価格の改善や金属コストダウン等により360億円を見込む

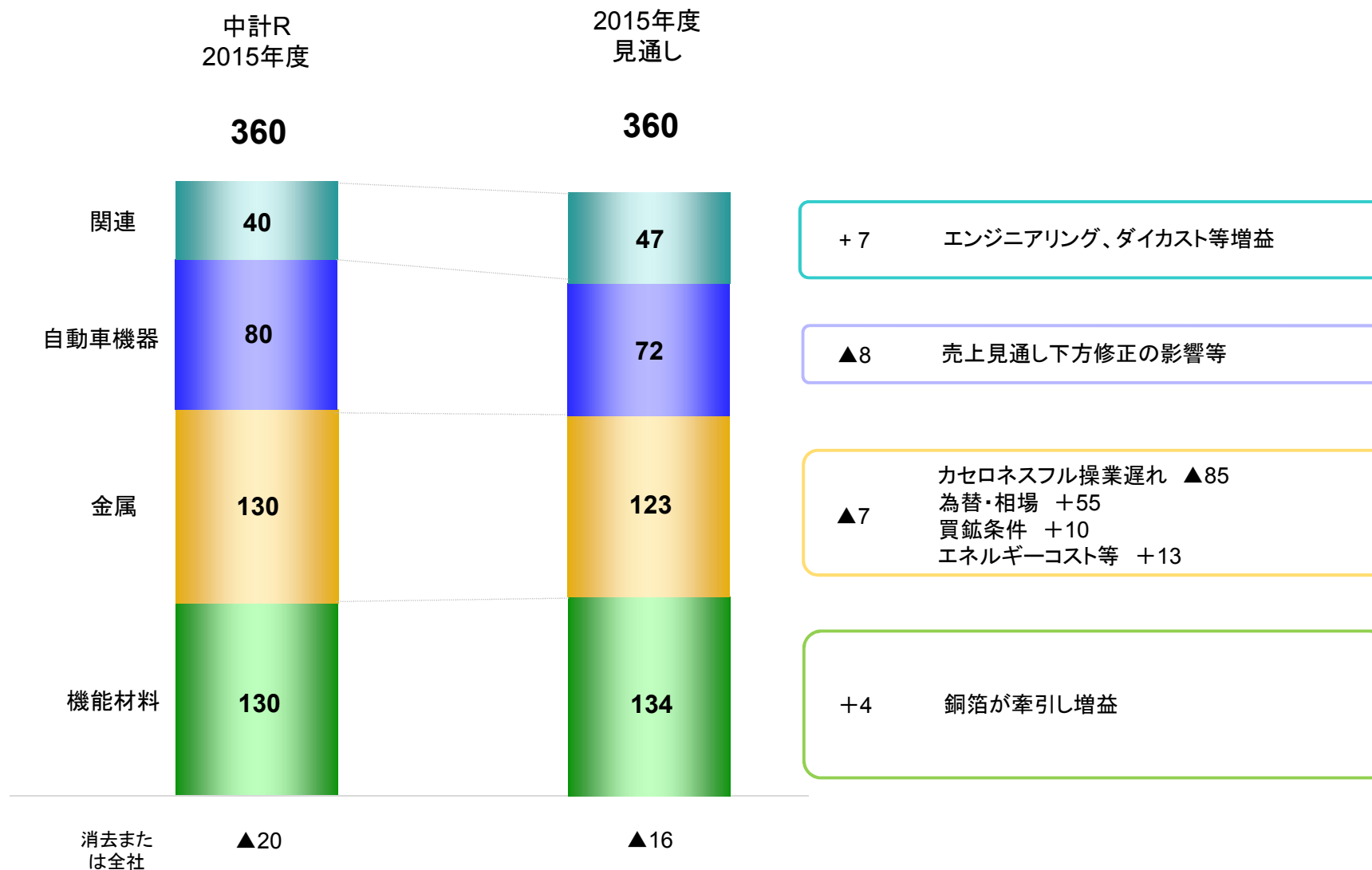


(単位: 億円)



セグメント別：金属・自動車機器では中計Rに届かないが、 機能材料や関連でカバーする

(単位：億円)



【 機能材料 】

(単位 : 億円)

中計R
2015年度

130



2015年度
見通し

134

対中計R
2015年度
増減

+ 4

中計R の主な打ち手		現状および見通し
電池材料	LMOの拡販	未達の見通し
	リチウムイオン電池向用新規材料の開発	計画に変更なし
触媒	新興国で拡大する触媒需要の取り込み	計画に変更なし
	新規触媒材料の開発	計画に変更なし
銅箔	戦略商品の拡販	計画に変更なし
	既存商品のアジアシフト	計画に変更なし
	新商品の開発	計画に変更なし
薄膜材料	新製品による市場開拓	計画に変更なし

【 金属 】

(単位 : 億円)

中計R
2015年度

130



2015年度
見通し

123

対中計R
2015年度
増減

▲7

中計R の主な打ち手		現状および見通し
亜鉛	コストダウン	計画に変更なし
リサイクル	溶融キルン(廃電子基板・有利原料増集荷・処理)	計画に変更なし
	竹原・神岡・上海等新規原料増集荷・処理	計画に変更なし
資源開発	カセロネス鉱山稼働	フル稼働時期遅れ
	ワンサラ鉱山周辺部開発	計画に変更なし
	ラドッククレーク探鉱	計画に変更なし

カセロネスのフル稼働時期が遅れたことにより、マイナスとなるが、一方で、亜鉛のコストダウンや、リサイクル増処理等の打ち手による効果は達成できる見込み

【 自動車用機能部品 】

(単位: 億円)



中計R の主な打ち手	現状および見通し
成長する新興国市場の取り込み	計画に変更なし
競争力強化	計画に変更なし

日系自動車メーカーの販売台数が伸びないことにより計画を引き下げるものの、中計で織り込んでいた施策は計画どおり進めている。
 13中計期間中に受注した2016年度以降に実現する拡販案件が約70億円ほどあり、拡大する基礎固めは進んでいる



2015年度 トピックス

2015年度トピックス（1）カセロネス

- ・ 昨年5月に精鉱生産を開始したものの、フル稼働に時間を要している
- ・ フル稼働は今年夏の予定

カセロネスプロジェクト

- ・ 初期投資額 42億ドル
- ・ SXEW 電気銅生産開始 2013年 3月
- ・ 銅精鉱生産開始 2014年 5月
- ・ フル生産開始予定 2015年 夏

- ・ 2015年度持分損益見通し 約▲35億円
(前提:銅価 270¢/lb, 為替120円/US\$)

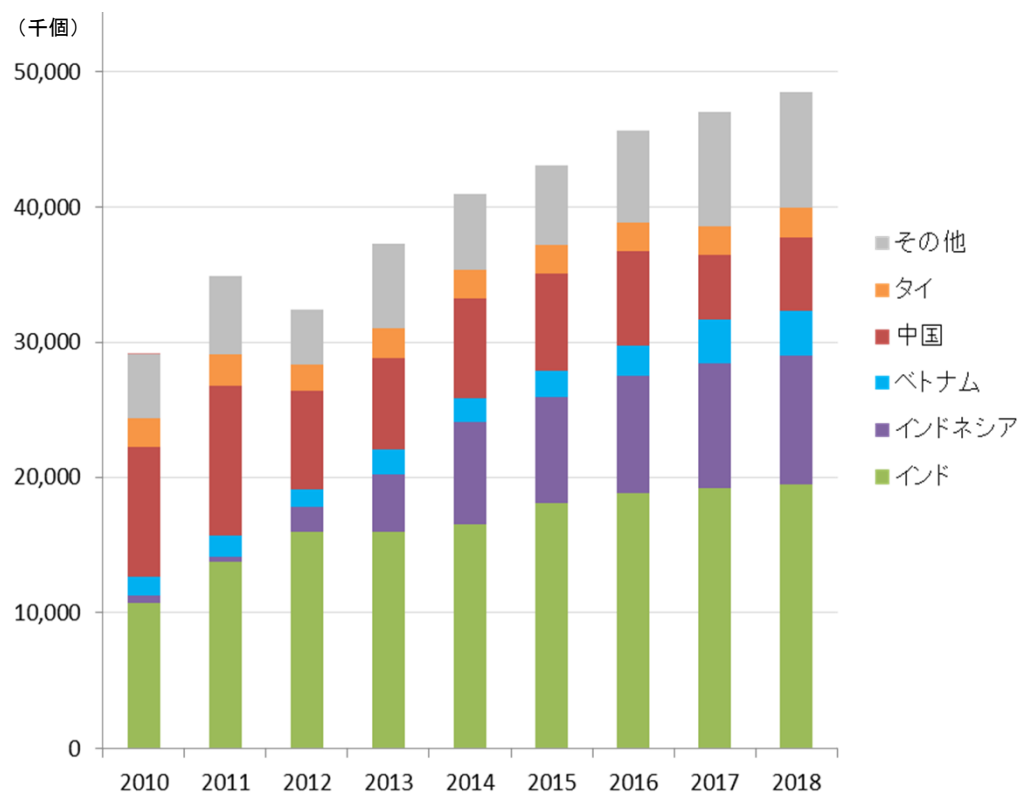


2015年度トピックス（2）触媒

- 当社初の4輪車用排ガス浄化触媒製造販売子会社であるMKCA※(アメリカ、ケンタッキー州)が、計画通り7月に量産開始予定。2016年度から収益貢献。
- 2輪車用触媒については特にインドとインドネシアでの成長を見込む

※ Mitsui Kinzoku Catalyst America

世界二輪市場における触媒使用数(予測)



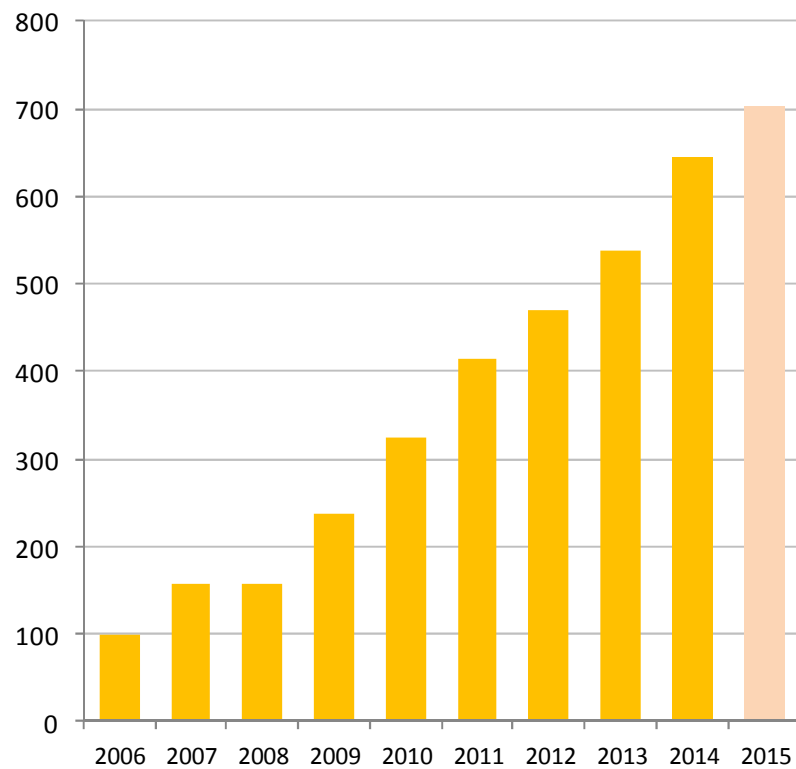
MKCI (インド) 第2工場



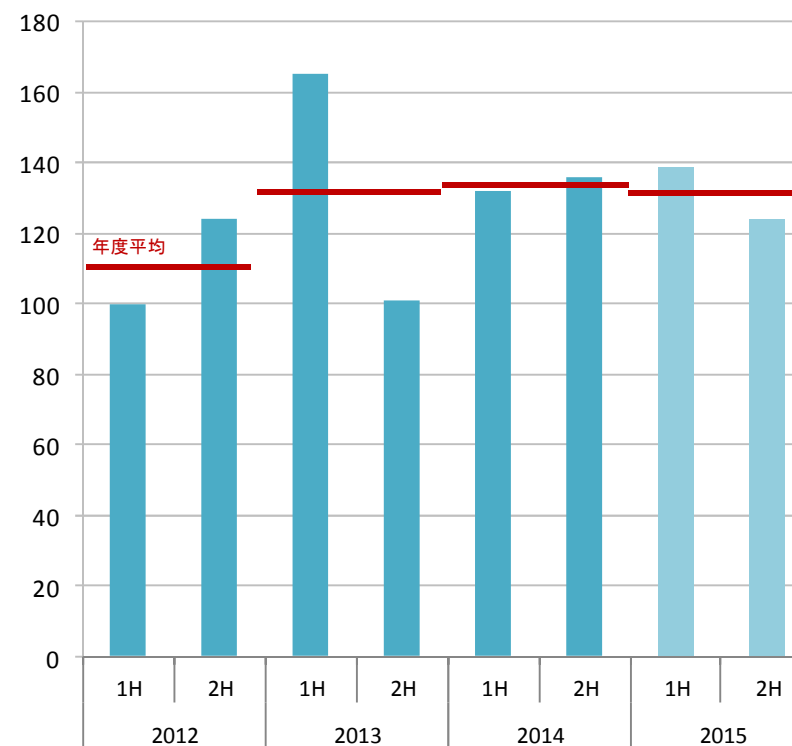
2015年度トピックス（3）銅箔

- ・ マイクロシンをはじめとした高機能銅箔が収益を牽引する図式に変更なし
- ・ アジアでは通信機器向けやFPC向けの動向がカギを握る

Micro Thin™ 販売量(2006年を100とした指数)



FPC向け銅箔販売量
('12/Q1を100としたときの指数)



2015年度トピックス（4）リサイクル製錬

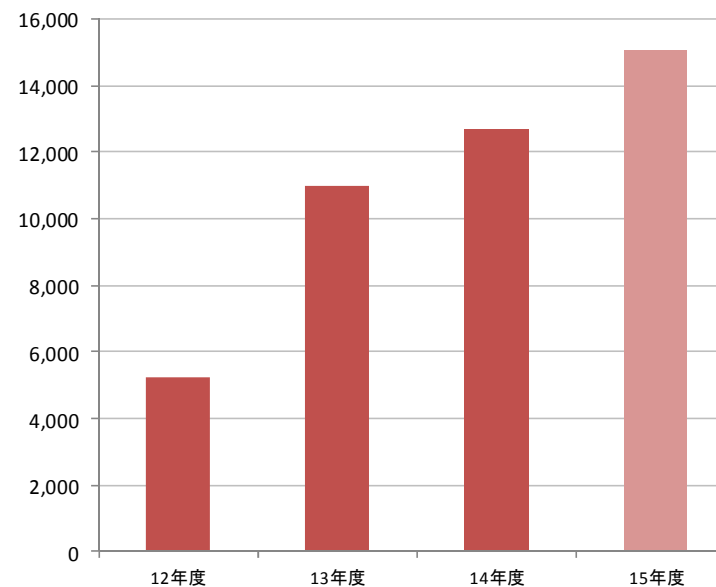
- ・ 中計で織り込んでいた打ち手の効果は計画通り、実現できる見込み

中計R での主な打ち手

①垂鉛コストダウン	酸化鋇比率向上 コークス代削減 有利原料処理
②溶融キルン処理量増	12,000t達成
③竹原・神岡・上海増処理	リサイクル原料 Sb, Bi等回収量増

いずれも達成できる見込み

溶融キルン処理量 (t)



2015年度トピックス（5）自動車機器

- ・ 2014年度は、日系自動車メーカーの販売不調やコストダウン効果の遅れ等により、計画ほど利益を伸ばせなかった
- ・ 2015年度は、コストダウンを加重し、増益を実現する
- ・ 日系自動車メーカーの伸びや、拡販効果が望める2016年度以降の成長に期待



Mitsui Kinzoku ACT Mexicana



Mitsui Kinzoku ACT Indonesia

将来の見通しに関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、様々な既存のリスク、未知のリスク、不確定要因等を伴っているため、実際の事業環境・事業活動は、これらによる影響を受けることとなります。したがって、将来の見通しに関する記述内容またはそれによって示唆されている内容が、実際に生じる結果と大きく異なる可能性もあります。

本資料は、将来の見通しに関する記述の中で使用されている目標、想定、期待、予測、計画、評価等の情報が正確である、または将来その通りになるということを、当社が保証したものではありません。

将来の見通しに影響を与える潜在的リスクや不確定要因については、当社の有価証券報告書またはホームページの「事業等のリスク」の項目に記載されておりますが、潜在的リスクや不確定要因がその項目ですべて網羅されている訳ではありませんので、その旨ご注意ください。

本資料は、株主・投資家等の皆様に、当社の経営方針・経営情報等をよりよくご理解いただくことを目的として作成しており、当社の株式の購入・売却など、株式等の投資を勧誘することを目的としたものではありません。したがって、皆様が実際に投資なさる際には、本情報に全面的に依拠して判断を下すのではなく、あくまでご自身で投資の可否をご判断くださいますよう、お願いいたします。